

平成30年度富山県生涯学習カレッジ富山地区センター

運営会議 議事録（要旨）

期 日 平成31年2月1日（金）10:30～12:00
場 所 県民カレッジ富山地区センター学習室
出席者 委員【10名】（五十音順）
赤尾 雅子 とやまマリッジサポートセンター室長、元県立高校副校長
今井 壽子 有限会社ゼフィール代表取締役
大井タミ子 県民教授（自遊塾講師）
片岸 昭二 福光美術館館長、前富山県立近代美術館副館長
笹田 茂樹 富山大学人間発達科学部教授
瀬戸 健治 富山地区生涯学習団体協議会会長
寺西 外美 富山ユネスコ協会理事
長谷川総一郎 富山大学名誉教授
松崎 訓子 富山市立図書館よみきかせの会代表
山口 吉弘 富山市公民館連絡協議会副会長

事務局【7名】

富山県生涯学習カレッジ 本部 1名
富山県生涯学習カレッジ富山地区センター 6名

1 開会（進行：県民カレッジ富山地区センター 奥井副所長）

2 開会の挨拶（県民カレッジ富山地区センター 片山所長）

3 委員紹介（各委員・事務局の自己紹介）

4 議事（進行：笹田運営会議会長）

I 平成30年度事業報告

（事務局）

（1）学習機会の提供

- ①地域課題学び活かし講座 前期1講座（4回） 後期2講座（8回）
- ②ふるさと探究講座（基礎） 前期1講座（4回）
- ③ふるさと探究講座（専門） 前期1講座（3回） 後期1講座（3回）
- ④教養講座 1講座（8回） ※富山地区生涯学習団体協議会への委託講座
- ⑤自遊塾 10講座開講
- ⑥共学講座 29講座開講

(2) 学習情報の提供 (4～12月)

- ①「とやま学遊ネット」による情報提供
 - ・学遊ネット全体のアクセス件数 633,644 件
 - ・富山地区センターホームページアクセス件数 119,208 件
- ②「センターだより」による情報提供 第1号(前期) 6,000部 第2号(後期) 5,000部

(3) 学習相談 (4～12月)

- ①窓口…学習計画の相談や、各種講座の受講に関することなど 1,223件
- ②電話、メール、郵送など…各種講座の受講に関することや、講師の紹介など 539件
※県民カレッジ全体の相談件数 9,291件、富山地区センターの相談件数 1,762件

(4) 学習交流の場の設定

- ・富山地区センター学遊祭…平成30年11月3日(土・祝) 雄峰高等学校学園祭と共催
5日(月) 7日(水) 8日(木) 参加者941名

II 富山地区センターの現状と課題

(1) 学習機会の提供

(事務局)

- ・平成29年度より2講座増の全46講座を実施。平日や富山駅前C i C会場での講座を新しく開催した。
- ・総受講者数は平成29年度より73名下回る570名だった。また受講者の約3割が未修了であることが課題である。審議していただきたい。

(委員)

- ・主催講座が2講座増え、修了率も昨年度より上がっている一方、総受講者数が減少している。受講者数減少の主な原因は何か。

(事務局)

- ・今年度は全て新規講座となったことも原因として考えられるが、はっきり分析できていない。

(委員)

- ・地域課題学び活かし講座の「YF16 とやまで暮らす—地域の魅力と安全を考える—」はC i C会場で行われ、木曜日の平日開催だが、会場も含めて受講者の反応はどうだったか。

(委員)

- ・講座受講者の一人だが、C i C会場は近くに駐車場もあり、受講者には利用しやすかったと思う。

(委員)

- ・平日の講座は参加しにくい人がいるかもしれないが、会場の利便性がよいことが受講者には良かったかもしれない。

(委員)

- ・現地研修は受講希望者が多く、参加率も高いとの事務局の説明だったが、木曜日開催の講座なのに現地研修が金曜日になっているのはなぜか。

(事務局)

- ・現地研修先の施設との調整のため、やむを得ず曜日変更となっている。

(委員)

- ・「YF15 とやまのもったいない—持続可能な地域づくり—」は土曜日開催だが、水曜日に実施された現地研修の参加率はどうかであったか。

(事務局)

- ・現地研修の参加率は 83.9%だった。他の講義よりも参加率が高かった。この講座は受講者数 31 名で定員 40 名に満たなかったが、アンケートからは満足度は高かったと思われる。
- ・受講者には、平日が参加しやすい人と土曜日が参加しやすい人がいるので、どちらがいいとは一概に言えない。

(委員)

- ・教養講座の修了率が 61.8%で、講座全体の修了率を下けているが、講義回数が 8 回あり、修了には 6 回以上の出席が必要なため、他講座より修了率が低くなる。また受講者の年齢層が高いため、急な体調不良による欠席で修了率が下がったのではないか。

(事務局)

- ・今年度は教養講座の申し込み方法の変更があり、最終回の講義まで受講申込を受付した。そのため受講段階ですでに 6 回未満になるケースもあり、修了率が下がったのではないか。
- ・最終回の講義まで受講申込を受付したことは、興味の高い人が講義に参加できて良かったのではないか。

(委員)

- ・キャッシュレス社会も到来しつつある今の時代、スマートフォンを使えないと生きていけない。スマートフォンの使い方を学べる講座も実施してほしい。

(事務局)

- ・人生 100 年時代とも言われ、高齢者にとってもスマートフォンはなくてはならないツールになっている。講座については検討していきたい。

(委員)

- ・カレッジわくわくシアターの実施は大賛成。南砺市に住んでいるが、いい作品であれば富山市の北日本新聞社で開催する映画鑑賞会に参加することもある。
- ・カレッジわくわくシアターのチラシに、「平成 30 年」と明記してほしい。長い間チラシをもっていると去年のものか今年のものか分からなくなる。年号が入っていないと、将来的に資料として活かせなくなる。

(2) 学習情報の提供

(事務局)

- ・富山地区センターだよりの効果的な配布と学遊ネットによる情報提供について検討いただきたい。

(委員)

- ・センターだよりの情報発信の仕方について、事務局の方針があれば聞かせて欲しい。

(事務局)

- ・受講者は圧倒的に講座情報をセンターだよりで入手している。今後もセンターだよりを中心に情報発信していく。
- ・インターネットでも講座の受講風景の紹介などを迅速に行い、生涯学習への興味関心を高めたい。

(委員)

- ・公民館には公立公民館と自治公民館があるが、公立公民館には膨大なチラシが集まってくる。自治公民館にも募集チラシを配布できれば、広く情報が伝わり効果があると思う。配布の手立てを考えてもらいたい。

(委員)

- ・昨年の会議で発言した「センターだよりのチラシに QR コードを付けること」を実現してもらい、うれしく思う。いろいろな資料にも QR コードを付けていけば、より情報発信できると思う。
- ・富山地区センターのホームページはスマートフォン対応になっているか。最近はシルバー世代でもスマートフォ

ンを利用している。スマートフォン対応になっていないとサイトを見る時に画面を動かさなくてはならない。スマートフォン画面で全体が分かるように変えてほしい。

(事務局)

- ・ホームページの管理についてはカレッジ本部で一括して行っている。カレッジのホームページは、まだスマートフォン対応にはなっていない。学遊ネットは全国に先駆けて開設したが、それ以降変わっていない。時代の変化は認識しているが、予算の都合もあり、そう簡単には変更できない。時間をかけて改善に向けて検討していきたい。

(委員)

- ・QRコードをチラシに付けたのはよかった。チラシを手取る方は高齢者が多いので、「スマホをかざすと詳しい情報が見られます」などと書いてあると良い。

(委員)

- ・以前、知人に教養講座の受講方法について聞かれたが、センターだよりの表紙には主催講座の募集期間が書かれてあり、既に申込が終わっているように感じた。教養講座は講義最終日まで受講申込を受付しているならば、いつでも申し込めることをセンターだよりに記載してあると良い。

(事務局)

- ・センターだよりは主催講座の情報が中心のチラシである。
- ・センターだよりの校了までに教養講座の詳細が決定していないこともあり、募集案内については、別途教養講座のチラシを3月下旬に発行している。
- ・富山地区生涯学習団体協議会と相談して改善していきたい。

(委員)

- ・教養講座は開催期間中いつでも申し込めると、全体の修了率は下がるが、いつでも生涯学習に参加できるのは良いことだ。

(委員)

- ・「富山市立図書館よみかかせの会」が富山地区センターの学習室を利用するようになって、県民カレッジの活動を知った。
- ・正直、主催講座と教養講座の違いが分からない。募集期間が違うことも知らなかった。募集期間を一括することは難しいと思うが、何か工夫できるのではないか。受講してみたいと思う人への入り口は、分かりやすい方がよい。

(委員)

- ・教養講座は、今年度から講義最終回まで受講可能となったとのことだが、運営側としては大変なことだと思う。
- ・教養講座にもっと特色を持たせてはどうか。例えば、富山には日本や世界に誇れる遺跡や観光資源があるので、県民が富山に誇りをもてる内容の講座あると良い。

(事務局)

- ・県民カレッジの主催講座では、富山の地域課題やふるさとをテーマに講座を開設している。

(委員)

- ・県民カレッジの講座等の情報を、生涯学習団体やボランティア団体などと連携して情報発信できないか。若い世代は県民カレッジのことを知らない人が多い。うまく既存の団体とコラボレーションして情報提供できないか。

(事務局)

- ・事務局でも、自遊塾の受講者にチラシを配ったり、所内掲示のポスターを見てもらったりしながら情報提供をしている。今後、様々な情報提供を検討していきたい。

(委員)

- ・センターだよりの発行部数は限られているので、ダイジェスト版を使って講座情報を提供してはどうか。予算の都合もあると思うが、ダイジェスト版は有効に活用できるのではないか。

(事務局)

- ・ダイジェスト版は富山地区センターで印刷している。主に経済同友会に配布している。また、再募集の際にもダイジェスト版を制作し、関係機関に配布している。また愛宕地区町内会には、各班長に回覧を依頼している。

(委員)

- ・私の所属するNPOと雄峰高校生徒会が連携して、富山城址公園のカラス除け対策「レインボースティック」を制作した。「レインボースティック」の公園設置の際にはテレビや新聞に取材に来てもらった。マスコミへの取材依頼はどのようにしているか。

(事務局)

- ・講座実施前に新聞社に取材依頼をしている。

(委員)

- ・マスコミが取材したくなるような、新しい取り組みを情報提供するとよい。

(委員)

- ・ケーブルテレビに取材依頼をしているか。ケーブルテレビは宣伝効果が高い。学遊祭などの情報発信には良いメディアだと思う。事前にケーブルテレビに連絡しておけば、取材してもらえる。

(委員)

- ・ケーブルテレビは、小・中学校の行事などをよく放映している。情報提供に効果があると思う。
- ・ホームページで講座や行事の動画をアップするとか、メルマガの配信もできたらよいと思う。

(3) 学習相談

(事務局)

- ・30年度の学習相談件数は1,762件(4~12月)で、4月がもっとも多く380件。4月~12月までの1か月平均は196件だった。

(委員)

- ・学習講座の相談はどのような内容か。

(事務局)

- ・「センターだよりは、いつどこで入手できるのか」、「講座の内容について教えてほしい」などの問い合わせが多い。
- ・パソコン教室など県民カレッジ以外の講座についての問い合わせもある。年に1回富山地区広域学習サービス連絡会議を行っているので、そこでの情報交換を踏まえて、他の生涯学習機関の講座も紹介できる体制を整えていきたい。

(委員)

- ・学習相談件数が増えていることは良い傾向だ。生涯学習に興味のある人に、適切な情報提供ができることが大切。

(委員)

- ・富山地区センターに学習相談窓口があることを、もっとアピールしてはどうか。

(4) 学習交流の場の設定

(事務局)

- ・雄峰高校学園祭の賑わいの影響を受け、学遊祭にも多くの方が来場した。開催期間の延長もあり、来場者数が 29 年度より 290 名増えた。
- ・昨年の会議の提案を受けて開催期間を延長し 4 日間とした。また、実演・体験の充実と会場スペースを増加した。

(委員)

- ・実際に学遊祭に参加された、2 名の委員に感想を伺いたい。

(委員)

- ・「富山市立図書館よみきかせの会」でフェルトシアター（人形劇）をさせていただいた。普段は幼稚園や保育園、支援学校で実施している。学遊祭では 10 時からの上演だったが、小さい子どもたちも見に来てくれてうれしかった。学園祭と同時開催だったので、雄峰高校の発表や展示を見たり、専攻科のフレンチレストランに行ったりと、会員にも大変好評だった。会員には生涯学習と縁のない若い世代の方もいるが、学遊祭の参加で、生涯学習を知ってもらう機会となった。

(委員)

- ・昨年度から運営委員となり、生涯学習について視野が広がった。
- ・学遊祭には、私が主催する自遊塾の受講者とともに参加した。当日は自遊塾の講義で体験した「マンダラぬり絵」を実施した。就学前の子どもから 80 代までが参加してくれた。受講者が学遊祭に参加したことで、自遊塾での「こころ」に関する学びが幅広い世代にも通じることが分かり、満足感が得られたようだ。雄峰高校生と一緒に学遊祭を味わうことができたことも良かった。自分自身の自遊塾のレベルアップにもつながった。

(委員)

- ・雄峰高校の学園祭と学遊祭を同時開催することで、相乗効果が出ている。学ぶ意欲にもつながっていると感じられる。

(委員)

- ・昨年度の会議で開催期間の延長が話題となっていたが、開催日や開催場所を増やすことなど、事務局は苦勞されたことと思う。
- ・保育園や幼稚園にチラシやポスターを配布したとのことだが、小学校は配布したか。子どもたちが楽しめる発表や体験があるので、芝園小学校・中学校にも広報したらよい。

(委員)

- ・学遊祭は豊富なメニューがあって素晴らしい。
- ・11 月 3 日は富山市の公民館でも文化祭を実施している。作品展示 1500 点、ステージ発表では 60 ほどのサークルが参加し、来場者数は 3 日間で 2000 人だった。保育園や幼稚園、小・中学校、高校のステージ発表もあった。園児のステージは、両親、祖父母の参加があり、にぎわいづくりには効果的である。
- ・一人でも多くの人に作品を見てもらうために、開催日を延長することは意義がある。小・中学校に広報することで、まだまだ来場者数は増やせると思う。

(委員)

- ・人生 100 年時代。学びや発表の場があることはすばらしい。

5 閉会の挨拶（富山地区センター 片山所長）

6 閉会